

へども、誰も不心付といへり、餘り近き世の事故探り見べき日記も手廻らず、泉涌寺は、東山に有が故ならんなど、答ふる人もあれど、歴代追々御陵ましまし、今更をくれて此時東山を用ひられん事當らず、何も合點不行事也、或時書房本城小兵衛來云、泉涌寺方丈の額は、張即之の筆にして東山とありといへり、然れども是もさてさて不審難晴といへども、向後校正の一助にひかへおく也トアレバ、信ト爲シ難シ、又鳩巢隨筆ニハ、院といふはもと宮中屋宇の名なり、略中東山に御座あるを以て東山院と稱するの類なりトアレド、是又明徴ナケレバ據リ難シ、  
〔光榮公記〕元文二年四月廿四日、右府兼一條云、御院號每度攝家勸進也云々、内々中御門院御治定也、

〔續史愚抄櫻町〕元文二年五月五日癸巳、故院御追號、爲中御門院、去月廿七日、内々治定云、

○按ズルニ、飯田忠彦ノ野史ニ、天皇讓位ノ後、櫻町仙院ニ遷御ノ事アリ、拾芥抄ニ、櫻町中御門北、萬里小路東南ト見ユ、今京ノ制ニハアラザレドモ據ナキニアラズ、錄シテ參考ニ供ス、

〔賴言卿記〕寶曆十二年七月廿三日甲申、御追號、儒卿三人各勸進、以一封被出也、廿六日丁亥、儒卿勸進御追號、廿八日己丑、先帝御追號、桃園院、御牌名筆者妙法院宮云々、

〔續史愚抄桃園〕寶曆十二年七月二十九日庚寅、此日以先帝御追號、爲桃園院、今度不被擇御追號、抑被取用云、

古代追號

〔續日本紀元八〕養老五年十月丁亥、太上天皇元明、召入右大臣從二位長屋王、參議從三位藤原朝臣

房前詔曰、略中朕崩之後、宣略中諡號稱某國某郡朝廷、馭宇天皇、流傳後世、

〔東大寺要錄八〕奈保山太上天皇元明、山陵牌文養老五年十一月七日崩

大倭國御谷添上誤郡平城之宮馭宇八洲、太上天皇之陵是其所也、  
養老五年歲次辛酉、冬十二月癸酉、撥撥恐十三日乙酉葬、